ふるさと見て歩き 第93回

那珂川大橋と田中豊博士

常陸大宮市野口地区では、茨城百景のひとつ、関東の嵐山ともいわれる御前山と清流那珂川の織りなす四季折々の景色を楽しむことができます。ここはカヌーなどアウトドアのメッカとして広く知られているほか、毎年恒例の御前山納涼花火大会でもおなじみです。この常陸大宮市の誇る風光明媚な地区のシンボルのひとつに、皆さんご存知の「赤い橋」、那珂川大橋があります。

しかしながら、ここには大正時代まで橋はなく、舟で那珂川を渡っていました。大正14年に木橋が架けられましたが、昭和13年の洪水で流され、続いて架けられた仮橋も昭和16年、20年、23年の洪水のたびに流され、永久橋建設が地域の悲願となっていました。その後架けられた橋は、田中豊博士の設計によって昭和24年に完成したもので、これが現在に残る那珂川大橋です。

▲那珂川と那珂川大橋

田中博士は、明治21年に長野県長野市に生まれ、東京帝国大学を卒業後、鉄道省の技術者として働いていました。大正12年に関東大震災が発生すると、復興事業のため内務省復興局に抜擢され、甚大な被害を受けた東京の橋梁再建に取り組みました。そして隅田川に架かる永代橋（大正15年竣工）や清州橋（昭和３年竣工）等を、当時の最先端技術を駆使して次々に設計し、大震災からの復興に大きく貢献したのです。また新潟市のシンボルとして知られる萬代橋（昭和４年竣工）も、田中博士が手掛けたものです。

その傍ら、田中博士は東京帝国大学教授も務めるなど後継者育成にも尽力し、多くの技術者を育てました。昭和41年にはその功績を称え、優れた特色を持つ橋梁に与える栄誉ある賞として、社団法人土木学会により田中賞が創設されたほどです。

田中博士の設計する橋は、芸術的な優雅さと実用的な強度を兼ね備えたアーチ構造が特徴です。手掛けた橋のうち現存する永代橋や萬代橋は、国の重要文化財指定を受けるなど、近代橋梁建築技術の結晶として非常に高い評価を得ており、現在でも地元住民から大切に守られ、また地域資源として観光面等に活用されています。

▲隅田川と永代橋
（深川観光協会提供）

▲信濃川と萬代橋
（新潟国道事務所提供）

第二次世界大戦後の復興時期に架けられた那珂川大橋は、既に東京大学名誉教授となっていた田中博士の晩年の傑作であり、その事業規模も当時としては以下のとおり桁外れでした。

総工費		8,500万円
就労人員		述べ75,000人
鋼材使用量	橋体	830トン
	橋面	1㎡ あたり5.4トン
	下部構造	115トン
セメント使用量		1,100トン

（「御前山村郷土誌」より）

昼夜に及ぶ12カ月間の大工事により完成した、長さ282.4ｍの四連ランガー式構造橋は、赤い色の近代的アーチ型が印象的でありながら周囲の自然ともよく調和し、竣工から半世紀以上が経過した現在でも圧倒的な存在感を誇ります。

那珂川においては、日本百名橋のひとつに数えられた水戸市の水府橋や、国道245号の湊大橋など茨城県を代表する名橋が、近年次々に寿命を迎えました。一度生まれ出たもので滅びないものはありません。この那珂川大橋が奏でる風景も、いつかは失われてしまうことでしょう。

常陸大宮市の誇る絶景を、ぜひ皆さんの記憶に留めておいてください。

歴史民俗資料館大宮館　☎52-1450